

# 保育者養成校におけるピアノ実技課題 — 領域移行に伴う授業時数の減少とピアノ実技課題の内容 —

木 許 隆

岐阜聖徳学園大学短期大学部

## On Developing Practical Piano Tasks for the Training of Preschool Teachers : Dealing with a Decrease of Lesson Hours due to Curriculum Change and Restructuring the Contents of Piano Lessons

Takashi KIMOTO

キーワード：教育課程 保育者 領域「表現」 ピアノ

### I. 研究の背景と目的

2017年3月、「幼稚園教育要領」<sup>1)</sup>、「保育所保育指針」<sup>2)</sup>、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」<sup>3)</sup>が同時に改訂・告示された<sup>4)・5)</sup>。時を同じくして、2016年11月、「教育職員免許法」<sup>6)</sup>が改正され、高等教育機関における学問的・専門的内容を展開する「教科に関する科目」、子どもへの指導法を展開する「教職に関する科目」などの科目区分を統合した。そして、2017年11月、「教育職員免許法施行規則」<sup>7)</sup>が改正され、教職課程の内容を充実し、教科に関する専門的な内容とその指導法など複数の科目内容を組み合わせた授業展開が可能になった。これらをふまえ、教員養成課程をもつ大学では、「教職コアカリキュラム」を作成し、教員の資質・能力の水準向上を目指し、教職課程の内容を充実する中で、保育・教育現場において必要とされる知識、技能を養成課程で習得できるようにした。

これまで、「教科に関する科目」は、移行期間を経て「領域に関する専門的事項」として配置され、「教職に関する科目」は、「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」として配置されることになった。また、「大学が独自に設定する科目」を配置する基準の中に「教科（領域）に関する専門的事項に準じる事項」と加えられ、科目配置にゆとりをもたせた<sup>8)</sup>。

前述した変更にもとない、教員養成課程を設置する大学、短期大学では、教育課程の変更を行なっている。筆者の所属校も同様に、教育課程の変更を行う中で、「教科に関する科目」に配置されていた「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」を、「領域に関する専門的事項」に配置し「子どもと音楽表現」とした。そして、「教職に関する科目」に配置されていた「保育内容（音楽表現Ⅰ）」、「保育内容（音楽表現Ⅱ）」を、「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に配置し「保育内容「音楽表現」指導法」とした<sup>9)</sup>。

これまで、「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」、「保育内容（音楽表現Ⅰ）」、「保育内容（音楽表現Ⅱ）」の4科目は、1クラスを2分割し集団授業とピアノ実技レッスンを45分入替制で展開してきた。また、ピアノ実技レッスンは、マンツーマン形式を採用し、学生の習熟度に合わせたレッスンを展開してきた<sup>10)</sup>。しかし、科目の授業内容が変更されることから、ピアノ実技レッスンを展開する授業が開講できなくなった。そこで、所属校の教育課程にある「保育に関する専門的事項」の中に「器楽演習Ⅰ」、「器楽演習Ⅱ」を新設し、ピアノ実技レッスンを展開することとなった。

本研究では、最大4期にわたり展開することができていたピアノ実技レッスンの課題を分析し、最大2期で展開しなければならないピアノ実技レッスンの課題を作成することを目的としている。そして、これまで展開してきた4科目の内容を踏襲したいとも考えている。

### II. 研究の方法

筆者の所属校では、「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」、「保育内容（音楽表現Ⅰ）」、「保育内容（音楽表現Ⅱ）」の4科目を配置している。そして、「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」、「保育内容（音楽表現Ⅰ）」の3科目で『バイエルピアノ教則本 Op. 101 (Ferdinand Beyer, 1806-1863)』<sup>11)</sup>を課題としたピアノ実技レッ

スンを展開している。また、初心者もしくは初学者が、「保育内容（音楽表現Ⅰ）」を終えた時点で、その教則本から抜粋した必修課題を終了するよう指導している<sup>12)</sup>。

本研究では、以下のように研究を進める。

1. 「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」、「保育内容（音楽表現Ⅰ）」の3科目で課題とした『バイエルピアノ教則本 Op.101 (Ferdinand Beyer, 1806-1863)』を分析する。分析にあたっては、各課題において入学時に初心者もしくは初学者であった学生が、どのような知識、技術を習得できるのかという観点で分析する。

2. 分析した課題を精査し、「器楽演習Ⅰ」、「器楽演習Ⅱ」の課題を作成する。

### Ⅲ. 研究の内容

これまで展開した「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」、「保育内容（音楽表現Ⅰ）」の3科目でピアノ実技の必修課題とした内容は、以下のとおりである（表1）。

授業では、各ステップの必修課題を習得し、期末試験では、必修課題より5曲を抜粋して試験課題としている。そして、試験課題より当日1曲を教員が指定し、演奏している。

表1 ピアノ実技の必修課題

Steps	課題
1	14, 18, 25, 29, 31
2	45, 46, 48, 52, 55, 58, 60
3	66, 72, 73, 74, 75, 77, 78
4	79, 80, 81, 82, 88, 90, 91, 93
5	95, 96, 97, 98, 99, 100, 102, 104

#### 1. Step1の課題

14番 (C-Dur, 4/4) は、右1-5-1指、左5-1-5指<sup>13)</sup>を用いて、両手の平行進行の練習を行う。また、音の跳躍に完全5度（左右c・g、左右g・c）<sup>14)</sup>を含む。

18番 (C-Dur, 3/4) は、右1-3指、3-1指の練習、1-5指、5-1指で完全5度を演奏する練習を行う。左は、①③指、①②指<sup>15)</sup>で重音を演奏する練習を行い、両手の平行進行へ繋ぐ。また、音の跳躍に短3度（左e・g）を含む。

25番 (C-Dur, 3/4) は、右1-5指、左1-5指の総合的な練習を行う。そして、両手の平行進行、反進行の練習を行う。

14番から25番は、slur<sup>16)</sup>が付されフレーズを明確にしている。また、slurに加えlegato<sup>17)</sup>が付され、より滑らかに演奏するよう指示している曲もある。

29番 (C-Dur, 4/4) は、右1-5指、左1-5指による総合的な練習を行う。そして、tie<sup>18)</sup>を用いて音価を感じる感覚を身に付ける。

31番 (C-Dur, 4/4) は、右1-5指の総合的な練習を行う。左は、basso Albertino<sup>19)</sup> (c・g・e・g)を導入する。また、両手の平行進行、反進行を応用した練習を行う。

#### 2. Step2の課題

45番 (C-Dur, 4/4) は、右、左ともに長短2度、長短3度を演奏する練習を行い、両手の平行進行へ繋ぐ。そして、音価を感じる感覚を身に付ける。

46番 (C-Dur, 4/4) は、右1-5指の総合的な練習、tie、休符を用いて音価を感じ、弱起のフレーズを感じる感覚を身に付ける。左は、basso Albertinoを応用した練習を行う。

48番 (C-Dur, 3/4) は、右1-4指の総合的な練習を行い、付点音符の音価を感じる感覚を身に付ける。左は、5・3・1指による分散和音の練習<sup>20)</sup>を行う。

52番 (C-Dur, 6/8) は、右1-5指の総合的な練習を行い、左5・3・1指による分散和音の練習を行う。また、6/8拍子の拍子感覚を身に付ける。

55番 (C-Dur, 4/4) は、右1-5指の総合的な練習を行い、付点音符の音価を感じる感覚を身に付ける。左は、basso Albertinoを応用した練習を行い、高音部譜表、低音部譜表の移行を理解する。そして、強弱記号<sup>21)</sup>による表現の感覚を身に付ける。

58番 (C-Dur, 4/4) は、右1-5指の総合的な練習を行い、音価を感じる感覚を身に付ける。左は、basso Albertinoを応用した練習を行う。また、crescendo<sup>22)</sup>、diminuendo<sup>23)</sup>を図形で表記し、強さを徐々

に変化させる感覚を身に付ける。

60番 (a-moll, C-Dur, a-moll, 3/4) は、右 1-5 指、左 1-5 指による総合的な練習を行う。そして、両手の平行進行、反進行を応用した練習を行う。また、平行調へ転調し、原調へ戻る練習を含む。

### 3. Step3 の課題

66番 (C-Dur, 6/8) は、右 1-5 指の旋律的な練習、左 5・3・1 指、5・2・1 指による分散和音の練習<sup>24)</sup>を行う。また、dolce<sup>25)</sup>を表記し、曲想や表現の感覚を身に付ける。

72番 (G-Dur, 3/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習、③⑤・1 指の和音を分散させる練習を行う。左は、③⑤・1 指もしくは②④・1 指の和音を分散させる練習を行う。また、右は、指を替えることにより、同じ音を連打する感覚を身に付ける。

73番 (C-Dur, 4/4) は、右、左ともに音の跳躍に慣れる練習を行う。そして、臨時記号<sup>26)</sup>を用いてその有効となる範囲を理解し、読譜の基礎を確認する。また、右は、1-2 指により指をまたぎ chromatic scale<sup>27)</sup>を演奏する練習を行う。

74番 (G-Dur, 4/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、scale<sup>28)</sup>により調性を理解する。左は、5・3・1 指、4・2・1 指による分散和音の練習を行う。

75番 (D-Dur, 3/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習、指のポジションを移動する練習を行う。左は、3・1 指により指をくぐらせ、scale の下向形を演奏する練習を行う。

77番 (C-Dur, 3/4) は、4 分音符と 8 分音符の音価を理解し、一定のテンポで演奏する練習を行う。また、左は、basso Albertino を応用し、臨時記号を用いてその有効となる範囲を確認する。

78番 (G-Dur, 6/8) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、四声部の開離配置<sup>29)</sup>を理解する。また、左 5 指に保持音を用い、指を分離する練習を行う。

### 4. Step4 の課題

79番 (A-Dur, 3/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、指のポジションを移動する練習を行う。そして、右 2-1 指により指をまたぎ、右 3-1 指により指をくぐらせる練習を行う。左は、指のポジションを移動することなく、1-2 指により長短 2 度を演奏する練習を行う。

80番 (D-Dur, G-Dur, D-Dur, 3/4) は、弱起、装飾音を含み右 1-5 指の旋律的な練習、指のポジションを移動する練習を行う。そして、左腕の上を右腕が交差し、右で低音を演奏する練習を行う。さらに、右 1-2 指により指をくぐらせ chromatic scale を演奏する練習を行う。

81番 (A-Dur, D-Dur, A-Dur, 3/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、scale により調性を理解する。左は、5・②①指により、1 オクターヴの跳躍の練習を行う。また、A-Dur から D-Dur へ転調する関係上、指のポジションを左へ移動する練習を行う。

82番 (E-Dur, A-Dur, E-Dur, 3/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、scale により調性を理解する。また、1 オクターヴの跳躍の練習を行う。左は、②④指により E-Dur の IV、V の重音を演奏し I の分散和音へ解決する練習を行う。

88番 (G-Dur, 4/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、scale により調性を理解する。左は、5 指に保持音のある basso Albertino の練習を行う。

90番 (C-Dur, 6/8) は、右③⑤指による長短 3 度の音程から、①⑤指による短 6 度の音程に移り変わる練習を行う。また、指を替えることにより同じ音を連打する感覚を身に付ける。左は、ホルン 5 度<sup>30)</sup>の練習を行う。

91番 (a-moll, 2/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、旋律的短音階の上向形を含む調性を理解する。左は、5 指に保持音のある basso Albertino の練習を行う。

93番 (a-moll, 6/8) は、右 1-5 指の旋律的な練習を行い、旋律的短音階の上向形及び下向形を含む調性を理解する。左は、a-moll の V の和音を用い、指のポジションを移動する練習を行う。

### 5. Step5 の課題

95番 (C-Dur, 3/8) は、右 1-5 指により長短 6 度を順次進行する練習を行う。左は、1-5 指の旋律的な練習を行う。そして、C-Dur の V の和音を用い、指のポジションを移動する練習を行う。

96番 (F-Dur, C-Dur, F-Dur, 3/8) は、8 分音符と 16 分音符の音価を理解し、一定のテンポで演奏

する練習を行う。また、右の①②⑤指により C-Dur の I の和音を、①②④指により C-Dur の V<sub>7</sub> の和音を演奏する練習を行う。

97 番 (C-Dur、3/8) は、右①③指、②④指、③⑤指により長短 3 度を順次進行する練習を行う。左は、5 指に保持音のある伴奏の練習、1 オクターヴの跳躍の練習を行う。

98 番 (F-Dur、3/8) は、弱起を含み右 1-5 指の旋律的な練習を行う。そして、四声部の開離配置を理解する。また、左の指のポジションは、移動しない。

99 番 (B-Dur、4/4) は、上三声の密集配置<sup>31)</sup>、scale により調性を理解する。また、最後には、右、左で四声部の開離配置を理解する。

100 番 (F-Dur、3/8) は、装飾音を含む右 1-5 指の旋律的な練習、指のポジションを移動する練習を行う。そして、左腕の上を右腕が交差し、低音を演奏する練習を行う。また、四声部の密集配置を理解する。

102 番 (F-Dur、4/4) は、右 1-5 指の旋律的な練習、指のポジションを移動する練習を行う。そして、複付点音符の音価を理解し、リズムの感覚を身に付ける。また、scale により調性を理解する。さらに、左の指のポジションは、移動しない。

104 番 (F-Dur、3/8) は、右 1-5 指の旋律的な練習、指のポジションを移動する練習を行う。また、C-Dur に転調するわけではないが、C-Dur の scale 及び F-Dur の scale により調性を理解する。

#### IV. 研究の結果と考察

Step1 の課題より 14 番は、左右の手を交互に動かし、両手の平行進行へ発展させる課題であった。18 番は、左手の重音に慣れ、左右の 1-3 指の平行進行へ発展させる課題であった。25 番は、左右の 1-5 指を用いて平行進行、反進行を行う課題であった。29 番は、tie を用いて音価を感じる課題であった。31 番は、左に basso Albertino を用いて伴奏形に慣れる課題であった。また、14 番から 25 番は、指を滑らかに動かすことを習得する課題であった。

Step1 の課題は、すべて C-Dur で、初心者もしくは初学者の学生がピアノの白鍵のみを使って演奏できる。ピアノの演奏に慣れる観点から Step1 の課題としてふさわしいものであると考える。これらのことから、Step1 では、14 番、18 番、25 番、29 番、31 番を課題として選定する。

Step2 の課題より 45 番は、長短 2 度、長短 3 度を演奏する課題であった。46 番は、31 番を発展させ、basso Albertino を用いて伴奏形に慣れる課題であった。48 番は、付点音符の音価を感じ、分散和音を用いて伴奏形に慣れる課題であった。52 番は、48 番を発展させ、6/8 拍子の中で分散和音の伴奏形に慣れる課題であった。55 番は、46 番及び 48 番を発展させ、高音部譜表及び低音部譜表の移行を含んだ課題であった。58 番は、crescendo、diminuendo を付し、強弱や表現に繋ぐ課題であった。60 番は、両手の平行進行、反進行を応用させ、平行調へ転調し、原調へ戻る課題であった。

Step2 の課題は、45 番の長短 2 度を演奏する部分で、各指の独立が求められる。となり合う音を演奏するため読譜の確認にはなるが、ピアノの技術としては困難なものであると考える。また、52 番は、6/8 拍子を大きく 2 拍子として捉えるまでには至らないのではいかと考える。これらのことから、Step2 では、46 番、48 番、55 番、58 番、60 番を課題として選定する。

Step3 の課題より右は、旋律的な練習となる。66 番は、分散和音の伴奏と旋律を演奏する課題であった。72 番は、③⑤・1 指、②④・1 指の和音を分散させる課題であった。73 番は、臨時記号の用法を含み、chromatic scale を演奏する課題であった。74 番は、分散和音と G-Dur の scale により調性を理解する課題であった。75 番は、D-Dur の scale により調性を理解する課題であった。77 番は、左右の音価が変化する中で、テンポを一定に保ちながら演奏する課題であった。78 番は、四声部の開離配置を理解し、左 5 指の保持音を用い、指を分離する課題であった。

Step3 の課題は、74 番の調性を理解する部分で、フレーズをくりかえし、集中力が求められるのではないかと考える。また、77 番は、左右の音価が変化し、テンポを一定に保つことが困難であると考えられる。しかし、指のポジションの移動が無いため、他の課題より単純であると考えられる。これらのことから、Step3 では、66 番、72 番、73 番、75 番、78 番を課題として選定する。

Step4 の課題より 79 番は、右の指をまたぐ、指をくぐらせる練習を含み、A-Dur の scale を演奏する



課題であった。80番は、装飾音符、腕の交差を含み、chromatic scale を演奏する課題であった。81番は、転調を含み、A-Dur と D-Dur の scale により調性を理解する課題であった。82番は、右に跳躍する旋律を含み、E-Dur と A-Dur の scale により調性を理解する課題であった。88番は、左の保持音をともなう basso Albertino の上に、G-Dur の scale を演奏し、調性を理解する課題であった。90番は、左のホルン5度の練習を行い、右③⑤指による長短3度、①⑤指による短6度、同じ音を連打する課題であった。91番は、保持音をともなう basso Albertino の上に、a-moll の旋律的短音階（上向形）を演奏する課題であった。93番は、a-moll の旋律的短音階（上向形及び下向形）を演奏する課題であった。

Step4 の課題は、79番の A-Dur の scale を演奏する部分で、81番と重複している部分が多く見られた。82番は、E-Dur と A-Dur を含むことから、ピアノの技術としては困難なものであると考える。91番は、a-moll の scale を演奏する部分で、93番と重複している部分が多く見られた。これらのことから、Step4 では、80番、81番、88番、90番、93番を課題として選定する。

Step5 の課題より95番は、右で長短6度を順次進行する課題であった。96番は、テンポを一定に保ち演奏し、右の和音による伴奏を行う課題であった。97番は、右で長短3度を順次進行する課題であった。98番は、弱起を含み、拍を感じながら旋律的な練習を行い、四声部の開離配置を理解する課題であった。99番は、上三声の密集配置、B-Dur の scale により調性を理解する課題であった。100番は、旋律的な練習の中で指のポジションを変える課題であった。102番は、複付点音符の音価、F-Dur の scale により調性を理解する課題であった。104番は、右の指のポジションを変え、転調をとまなわなない C-Dur 及び F-Dur の scale により調性を理解する課題であった。

Step5 の課題は、95番の長短6度の重音は、右1-5指が連続するため、ピアノの技術として困難なものであると考える。97番の長短3度の重音は、右①③指、②④指、③⑤指により順次進行するため、ピアノの技術として困難なものであると考える。また、104番は、scale により調性を理解する部分で、102番と重複している部分が見られた。これらのことから、Step5 では、96番、98番、99番、100番、102番を課題として選定する。

## V. まとめと今後の課題

本研究では、最大4期にわたり展開することができていたピアノ実技レッスンの課題を分析し、最大2期で展開しなければならないピアノ実技レッスンの課題を作成することを目的とした。そして、課題の分析にあたっては、各課題において入学時に初心者もしくは初学者であった学生が、どのような知識、技術を習得できるのかという観点で分析した。

その結果、Step1 では、14番、18番、25番、29番、31番、Step2 では、46番、48番、55番、58番、60番、Step3 では、66番、72番、73番、75番、78番、Step4 では、80番、81番、88番、90番、93番、Step5 では、96番、98番、99番、100番、102番をそれぞれ課題として選定した。

今後、「基礎音楽Ⅰ」、「基礎音楽Ⅱ」において展開していた音楽理論、子どもの歌の弾き歌い、「保育内容（音楽表現）」において展開していたコードネームによる伴奏法、子どもの歌の弾き歌いなどの内容を、どの科目で展開するのか考えなければならない。そして、新設される「器楽演習Ⅰ」、「器楽演習Ⅱ」における指導法を考え、初心者もしくは初学者が「器楽演習Ⅱ」を終えた時点で、課題を終了することができるよう努めなければならない。

## 注・文献

- 1) 文部科学省 (2017) : 「幼稚園教育要領〈平成29年告示〉」フレーベル館, 東京.
- 2) 厚生労働省 (2017) : 「保育所保育指針〈平成29年告示〉」フレーベル館, 東京.
- 3) 内閣府 (2017) : 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉」フレーベル館, 東京.
- 4) 無藤 隆他 (2017) : 「ここがポイント! 3法令ガイドブック - 新しい『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の理解のために - 」フレーベル館, 東京.
- 5) 民秋 言他 (2017) : 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」萌文書林, 東京.

- 6) 教育職員免許法（昭和二十四年五月三十一日法律第百四十七号）。
- 7) 教育職員免許法施行規則（昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号）。
- 8) 無藤 隆他（2017）：「幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～」萌文書林，東京。
- 9) 文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員免許企画室（2018）：「教育職員免許法等の改正と新しい教職課程への期待」資料。
- 10) 石川眞佐江（2013）：「幼稚園教育要領における音楽活動の位置付けの歴史的変遷 - 領域〈音楽リズム〉から領域〈表現〉への転換を中心に - 」静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）第44号，静岡，pp. 97-110。
- 11) 安田 寛他（2016）：「バイエル原典探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相」音楽之友社，東京。
- 12) 木許 隆他（2014）：「保育者、教員をめざす人のための初級ピアノ・テクニク速習ステップス」音楽之友社，東京。
- 13) 指番号：親指を1指、人差し指を2指、中指を3指、薬指を4指、小指を5指とする。また、指番号もしくは音名の間にある「-」は、音を順次進行して演奏することを示す。
- 14) 音名：ドイツ語表記を用いている。「・」は、音を跳躍させ演奏することを示す。
- 15) 「○」で囲った指番号：音を同時に演奏することを示す。
- 16) slur：二つまたはそれ以上の音符に付ける弧線を指し、曲のフレーズを示す。
- 17) legato：音の間に切れめを感じさせないように演奏することを示す。
- 18) tie：同じ高さの音符に付ける弧線を指し、二つの音を一つの音として演奏するよう示す。
- 19) basso Albertino:Alberti-Bass（独）ともいう。イタリアの作曲家Domenico Alberti（1717-1740）が始めたと言われるクラヴィーアのための分散和音の伴奏形態を指す。
- 20) 左5・3・1指による分散和音の練習：Iの和音（c・e・g）及びVの和音の第一転回形（h・d・g）を用いて行う。
- 21) 強弱記号：「バイエルピアノ教則本 op. 101」の53番から付けられている。
- 22) crescendo：だんだん強く演奏するよう示す。
- 23) diminuendo：だんだん弱く演奏するよう示す。
- 24) 左5・2・1指による分散和音の練習：IVの和音の第二転回形（c・f・a）を用いて行う。また、一部、和声の終止形を演奏することから「c・f・g」となる部分を含む。
- 25) dolce：柔らかく、愛らしく演奏するよう示す。
- 26) 臨時記号：五線記譜法で用いる変化記号で、楽曲の途中で臨時的に現れた派生音を示す。また、それが記された音符以降、同一小節内の同一音高にのみ有効となる。
- 27) chromatic scale：隣あう音の音程関係が短2度もしくは増1度で構成される音階を指す。
- 28) scale:指定された調の基本となる音から順番に並べられることを指す。日本語では「音階」と表記する。
- 29) 開離配置：上三声の各声部間に和音の構成音が入る間隔があり、1オクターヴ以上は開離しない和音の配置を指す。また、テノールとバスの間隔は12度以内にある。
- 30) ホルン5度：二声の響きに関する用語。「c・d・e」と順次進行する音の下に「e・g・c」を配置することを指す（上声部のc音と下声部のc音は同音）。また、二つ目の音（上声部d音、下声部g音）の音程が、完全5度となる。
- 31) 密集配置：三和音を含む和音構成を指す。上三声は1オクターヴ以内に密集し、テノールとバスの間隔は12度以内にある。